

ボタン穴変形のリスク因子に関する研究

～短母指伸筋腱の停止位置の解剖学的変異と臨床的意義～

へご協力のお願い

研究機関名	岡山大学病院		
研究機関長	槇野博史		
研究責任者	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科人体構成学	准教授	西田圭一郎
研究分担者	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科整形外科学分野	大学院生(医師)	沖田駿治
	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科人体構成学	教授	大塚愛二
	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科運動器医療材料開発講座	助教	那須義久
	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科運動器外傷学講座	助教	中原龍一

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

関節リウマチなどの関節の炎症が原因で発症するボタン穴変形と呼ばれる親指の変形（指節間関節伸展、中手指節間関節屈曲）があります。

原因の大部分は関節の炎症にあることは分かっているものの、関節の炎症を同程度起こしているのにボタン穴変形を発症する人、しない人がおられます。

そこで、ボタン穴変形を「起こしやすい人」と「起こしにくい人」にどのような違いがあるのかの研究を始めました。

短母指伸筋腱と呼ばれる親指に存在する腱がボタン穴変形の発症に関係しているのではと考え、短母指伸筋腱に注目し研究を行います。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

一般的には健常なご遺体の親指の構造とボタン穴変形の手術を行った際の手術記録を検討することで、ボタン穴変形をきたした方に認める共通の特徴（ボタン穴変形のリスク因子）がわかる可能性があります。

共通の特徴がわかればどういった人がボタン穴変形をきたしやすいのかを健常な間に予測し、予防できるようになるかもしれません。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日の間に行われた系統解剖用ご遺体

2) 研究期間

平成 28 年 7 月倫理委員会承認後～平成 30 年 3 月 31 日

3) 研究方法

平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日の間に系統解剖が行われたご遺体を用いて、研究者が解剖記録及びその際に採取した試料をもとに短母指伸筋腱の停止様式に関する分析を行い、ボタン穴変形の手術記録と比較検討します。

4) 使用する情報

日本解剖学会の提示する「解剖体を用いた研究についての考え方と実施に関するガイドライン」（下記）に準じて、この研究に使用する試料や情報として、以下を使用させていただきますが、あなたの個人情報は削除し、匿名化して、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 年齢、性別
- ・ ご遺体の短母指伸筋腱の停止様式
- ・ 必要に応じて短母指伸筋腱停止部の切片
- ・ ご遺体の基節骨中央部の腱の幅

5) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した試料や情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院整形外科医局内金庫で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、ともしび会のホームページに掲載してお知らせします。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、主にご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）が希望される場合にのみ行います。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究はご遺体の個人情報かわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、あなたの試料や情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、平成30年2月28日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も皆様に不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 整形外科

氏名：沖田駿治

電話：086-235-7273（平日：8時30分～17時00分）

ファックス：086-235-9727